

伊賀東照宮崇敬会報

第1号

発行所
伊賀東照宮社務所
三重県伊賀市老川1103-2
TEL 0595-55-2512

ご挨拶

宮司 稲葉 喜代子



令和の新春を寿ぎ、御崇敬の皆様と共に新御代を迎えましたことを、お慶び申し上げます。

顧みますれば、平成三十年に先帝陛下御即位三十年佳節の御祝を申し上げ、平成三十一年四月三十日御退位され、五月一日に新令和の御代を迎えて、「踐祚改元報告祭」が執り行われ、天皇陛下がつつがなく皇位を継承され、国民が祝福のお慶びを申し上げました。当日は伊賀東照宮に於いても「踐祚改元報告祭」を役員・崇敬者参列のもと齋行致しました。

御大札の儀、十月二十二日には「御即位の礼」が執り行われ、天皇陛下が御即位されましたことを国内・国外に宣命されました。

(1) 十一月十日「祝賀御列の儀」、十一月十四日、十五日には「大嘗祭」が齋行され、天照大御神さまを始め神々さまに御供えされ、陛下御身から神々々ともにお召し上がりになられ、即位後初めて新穀をお供えする新嘗祭で御一

代に一度の重儀とされるお祭りです。当宮に於いては、毎月の祭儀の始めに、日本國 世界平和 皇室の弥栄を参列者と共に祈り申し上げております。

昨年はお慶びの中で、一方では世界は異常気象による風水害、地震に甚大なる被害を及ぼし、尊い生命や長年築いてきた大切な物が失われ、未だ復興の兆しも程遠いことに心が痛む日々です。一日も早い復興と心の平安・ご冥福をお祈り申し上げます。

さて、当宮の始まりは、創始者坂野つなへ姫命が名古屋の地に於いて、昭和四十四年七月七日午前二時、天御中主大神・天照皇大神の啓示に依り、御祭神徳川家康公を身に受け半世紀の生涯を神命にご奉仕され、道半ばで帰幽されました。

昨年（令和元年七月七日）には啓示より五十年祭を盛大に齋行することが出来ました。

令和の新御代に五十年祭を迎えることになるとは、誰が予想できたでしょうか。この事は大神さまの御神意にはかならないと存じ感謝申し上げます。いられません。

宮の創建は啓示より八年後、数多の崇敬者の尊いご浄財により神殿が建設され、竣工報告祭の前夜（昭和五十二

年四月十六日）浄暗の中、日光東照宮より御分霊鎮座祭が現在の日光東照宮宮司稲葉久雄氏、祢宜、地元宮司様の御奉仕と、地元老川の有志の方々、崇敬者の御奉仕の元齋行され、翌日十七日には盛大に鎮座報告祭・神殿竣工祭が執り行われました。

尚、当時の社名は、伊州老川東照大権現でありましたが、鎮座報告祭後、藤堂高虎公が伊賀に東照宮を創建されなかつた事で、日光東照宮殿より伊賀東照宮の宮号を賜りました。

その当時、青山町（旧）が現在の伊賀市になろうとは、私共は夢にも思っていなかつた。

まさに二十六年後の「平成十六年十一月一日」に六市町村が合併して「伊賀市」が誕生した。

日光東照宮は正に先見の目で、大神さまの御神意で御社名をお授けいただいたものと、当時は身に震える程の確信を得た事を、今でも鮮明に覚えております。

現在に至る迄には数々の御神託をいただいておりますが、創始者の御教えについても、又の機会に述べて参りたいと存じております。

近況報告として奉祝祭典と記念事業を記します。

- 徳川家康公奉鎮四百年祭奉祝記念事業
- 一、本殿の改修工事
- 一、国旗掲揚台奉献
- 一、幟ポール一対奉献

○平成二十八年四月十七日

徳川家康公奉鎮奉祝例大祭齋行
（全国で齋行につき、当宮も合わせ齋行）

日光東照宮宮司代理
権宮司 柳田二郎氏参列

○平成二十九年三月八日完成

御分霊鎮座四十年祭記念事業
創始者坂野つなへ姫命顕彰碑建設奉献

○平成二十九年四月十七日

日光東照宮御分霊四十年鎮座奉祝祭
（奉鎮昭和五十二年四月十六日）
献幣使御参向 三重県神社庁理事
金山 修氏

日光東照宮宮司代理
青山隆生氏参列



伊賀東照宮春季例大祭、鎮座四十年祭 平成29年4月17日

○平成二十九年五月十七日
日光東照宮春季例大祭
宮司・奉賛会長参列

○平成二十九年六月八日から九日の両日
全国東照宮連合会総会
(当番社日光東照宮)に参加
当宮バス一台二十七名、各地より参加

○平成三十年二月十七日
祈年祭

○平成三十年二月十八日
皇居勤勞奉仕に先立ち、明治神宮
にて奉仕御報告の御祈禱を受ける
(参拝者二十九名)



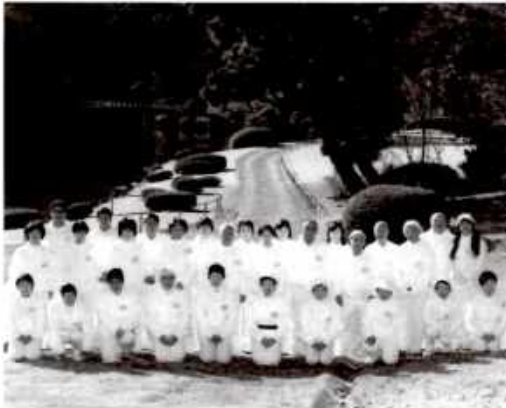
明治神宮参拝

○平成三十年二月十九日
天皇陛下御即位三十年奉祝記念事業、

伊賀東照宮皇居勤勞奉仕
御奉仕終了後、靖国神社報告参拝
参加者三十名(欠員一名)



皇居勤勞奉仕記念 於：皇居伏見櫓 平成30年2月19日



皇居勤勞奉仕記念 於：赤坂御用池 平成30年2月20日

○平成三十年三月十七日
月次祭

○平成三十年四月十七日



奉祝天皇陛下御即位30年 平成31年4月17日
伊賀東照宮春季例大祭

奉祝天皇陛下御即位三十年祭
春季例大祭齋行
春光東照宮宮司代理
榎宜 大島幸治氏参列

○平成三十年六月十七日
夏越大祓祭 崇敬者

○平成三十年七月七日
天命祭七夕まつり齋行
(昭和五十二年より齋行)

○平成三十年十月十七日
秋季例大祭齋行

○平成三十年十一月二十三日
新嘗祭齋行

○平成三十年十二月八日
三重県神社庁 名賀支部新穀感謝の

お伊勢まいり 役員参加

○平成三十年十二月九日・十日
迎春準備・すす祓い・大掃除
奉賛会・敬神婦人会奉仕

○平成三十年十二月十六日
ちのわ作り・清掃奉仕
奉賛会・敬神婦人会

○平成三十年十二月十七日
師走の大祓祭 崇敬者参列
(十二月三十一日は神職のみ)

○平成三十年十二月二十六日
御祭神 徳川家康公生誕祭

○平成三十年十二月二十七日・二十八日
迎春準備奉仕・奉賛会・敬神婦人会

○平成三十年十二月三十一日
師走の大祓祭・八百万神々にお鏡餅
献供

○平成三十一年四月三十日
天皇陛下御退位報告祭

○令和元年十一月十四日・十五日
大嘗祭

○令和元年十二月三十日
新年迎春 清めの幣立て十五ヶ所
奉賛会奉仕

○平成三十年～三十一年一月
除夜祭～年越まいり初詣
奉賛会・敬神婦人会奉仕

○新令和の御代 令和元年五月一日
踐祚改元報告祭 月次祭

○令和元年十二月三十一日
師走の大祓祭・かがり火準備
お鏡餅五十ヶ所献供
除夜祭 年越まいり

○平成三十一年一月一日
歳旦祭 午前十時三十分斎行
一日～ 月中は初祈禱

○令和元年五月十九日～二十一日
(二泊三日)
全国東照宮連合会総会
山形県出羽山神社
東照宮参拝

○令和元年十二月七日
三重県神社庁名賀支部主催
新穀感謝のお伊勢まいり 七名参加

○令和二年一月一日
歳旦祭・初祈禱奉仕 甘酒接待

○平成三十一年二月二日
節分祭準備奉仕
奉賛会・敬神婦人会

○令和元年六月十六日
ちのわ作り・清掃奉仕

○令和元年十二月八日・九日
迎春準備 清掃奉仕
奉賛会・敬神婦人会・崇敬者

○令和二年一月一日～
新年初祈禱・一月末日迄
企業関係・崇敬者・一般多数御奉仕

○平成三十一年二月三日
節分祭・湯立神事
崇敬者多数参列

○令和元年六月十七日
夏越の大祓祭・月次祭
崇敬者多数参列

○令和元年十二月十六日
師走の大祓準備・清掃奉仕
奉賛会・敬神婦人会・崇敬者

○令和二年一月七日
山の神祭 七種粥祭

○平成三十一年二月十七日
祈年祭 月次祭

○令和元年七月七日
御神託五十年祭・天命祭・七夕まつり
延葵音踊奉納・さくら太鼓奉納

○令和元年十二月十七日
月次祭・師走の大祓祭
(崇敬者の参列日の為)

○令和二年一月十五日
小豆粥祭 焼上祭

○平成三十一年三月十四日
名賀支部神社参拝研修旅行
岩津天満宮正式参拝

○令和元年七月二十九日
令和元年七月二十九日
創始者坂野つなへ媼命七年祭

○令和元年十二月二十六日
御祭神 徳川家康公生誕祭

○令和二年一月十六日
月次祭準備奉仕
奉賛会・敬神婦人会

○平成三十一年四月十七日
天皇陛下御退位御奉告祭
春季例大祭斎行
献幣使御参向 三重県神社庁理事
金山 修氏

○令和元年十月二十二日
奉祝 即位礼 斎行
奉賛会・敬神婦人会参列

○令和元年十二月二十七日・二十八日
迎春準備・清掃奉仕
奉賛会・敬神婦人会・崇敬者

○令和二年一月十七日
月次祭 午後より初役員会・新年会

○令和元年十一月十日
祝賀御列の儀

○令和元年十一月十日
祝賀御列の儀

○令和元年十二月二十九日
創始者坂野つなへ媼命月命日祭

日光東照宮宮司代理
榎宜 松田智哉氏 参列

日光東照宮宮司代理
榎宜 松田智哉氏 参列

日光東照宮宮司代理
榎宜 松田智哉氏 参列

※奉賛会・敬神婦人会・崇敬者有志の
皆様には一年間通して御奉仕いただ
き、尚年末より新年にはご参拝者
ご接待等々に御尽力いただき、御奉
仕いただきました事に厚く御礼申し
上げます。有難うございました。

また、当宮の年中行事は以下の通りです。

一月一日 歳旦祭

新年祈祷 一月中

一月七日 七穂祭 山の神祭

一月十五日 小豆粥祭 古札焼納祭

二月三日 節分祭

厄除祈願祭 二月中

二月十七日 祈年祭

四月十七日 春季例大祭

六月十七日 水無月(夏の大祓祭)

崇敬者の大祓祭

六月三十日 夏越の大祓祭

神職のみ

七月七日 天命祭 七夕夏まつり

七月二十九日 創始者月次祭

十月十七日 新嘗祭

十一月十七日 秋季例祭

大國主命御神像拝受鎮座祭

十二月十七日 師走の大祓祭

崇敬者の大祓祭

十二月二十六日 徳川家康公生誕祭

十二月三十一日 師走の大祓祭

除夜祭

鏡餅五十五か所献供

毎月の月次祭は、一日、十七日、二十

十六日(月生誕祭)、二十八日、二十

九日に行っています。毎月一日、十七

日の祭儀齋行前には、参列者一同、日

本国と世界の平和、御皇室の弥栄をお

祈りしており、二十六日、二十八日、

二十九日は神職のみの奉仕となります。

伊賀山間部の神社には、護持・運営

に厳しい課題が山積している中、今後

一層御神徳を宣揚し、東照公御遺訓・

敬神崇祖の念を次世代に繋げ、神社の

お祭りを通して、それぞれの役割を果

たして参りたいと存じます。今後と

も、皆様のご指導ご鞭撻を賜ります

ようお願い申し上げます。

(令和二年一月吉日)

令和の御代の記念事業

「目標予算金額 金貳千万円」

【工事概要】

一、本殿床張替工事

一、道路沿いトイレを水洗に改築

(障害者のお方に安心してご利用いただける工事)

一、事務所改築工事

一、直会会館一階天井張替工事

一、境内、古木伐採、土木工事等

御崇敬の皆様を賜りますようお願い申し上げます。

建設浄財金をすでにご奉納いただきました御社様・御崇敬者各位様

には厚く御礼申し上げます。

御挨拶

伊賀東照宮・責任役員

奉賛会長 杉本 友幸

新しい令和の時代を迎えて、責任役員・奉賛会・敬神婦人会・各地区役員・崇敬者各位の皆様方には益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。



平成三十一年より令和元年は、伊賀東照宮にとりまして、様々な意味で特別な年であるといえます。新元号令和の新しい時代を迎え、御代替わりの新天皇陛下御即位を奉祝し、踐祚改元報告祭、御即位の礼、大嘗祭、御大礼の御儀すべてが厳肅に執り行われますよう、伊賀東照宮に於いても祭儀を齋行致しました。

五月一日より新元号になり令和元年七月七日、神託五十年祭、天命祭を齋行致しました。奉納出演、延奏音頭・青山太鼓保存会・紅白もちくじ引き、責任役員、奉賛会、敬神婦人会、各地区役員、崇敬者各位、多数参加していただき盛大に齋行致しました。

私事ではございますが、六年ほど前から御縁をいただき伊賀東照宮にお参りさせて頂くようになり徳川家康公の伊賀越えを歴史研究に力を入れ、徳川家康公四百年日光東照宮令大祭、日光東照宮、前橋東照宮と参加いたしました。

親神様には生前中の御姿はお目にかかっておりませんが宮司様から神様の御祭り方、エピソードなど又役員、崇敬者の方からも教えて頂いております。親神様、宮司様が今日まで五十年間、役員・崇敬者・さまざまの方々々に力を発揮された事を感謝し、敬意を表します。令和二年の新しい年を迎えて、奉賛会会員の皆様のご健勝とお幸福をお祈り申し上げます、今後共伊賀東照宮、奉賛会に一層お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

御挨拶



敬神婦人会会長 東 積子

緑のきれいな静かな伊賀山間に、立派な伊賀東照宮が鎮座されておられます。

会員の皆様におかれましては、お元気で過ごしの事、お慶び申し上げます。

昨年、元号も「令和」に変わり、伊賀東照宮も神がかり五十年を迎えさせて頂きました。毎年七月七日は、天命祭が盛大に執り行われています。

立派な親神様にいろいろお教えを頂きました。

信じる。悟りを開く。感謝する。日本国・世界平和の祈り。

私達は生かされている事を忘れてはならない。

名古屋・大阪・遠くの方々・近くの方々お揃いでご参拝ありがとうございます。多くの方々とご縁をいただき、親交を深められることをうれしく思います。

これからも一層精進して、皆様と共に宮司様をお助け致したく、ご協力を心からお願ひ申し上げます。

皆様のご健康・ご多幸をお祈り申し上げます。お会いできる日を楽しみにしております。

令和二年の新年を迎え

親神様を偲んで

伊賀東照宮 権祿直 辻 順子

令和元年（昨年）、御退位の礼、大嘗祭の御祭典がつつがなく執り行われ、国民がひとしく奉祝のお慶びを申し上げます。伊賀東照宮に於いても祭儀が執り行われ、御奉仕を申し上げます。常に、当宮では、日本国・世界平和・皇室の弥栄を、参列者と共に、お祈り申し上げます。

私事乍ら、伊賀東照宮創始者坂野つなへ姫命様と、ご縁をいただきましたのは、若干二十五才ぐらいの頃で、父方の伯母（老川在住）が勤めさせていたでいたご縁で、伯母より「すごい神さんが、老川に帰って来ててな」という話を聞き、元々神様の事に興味をもっていたので、何らの抵抗も無く、ご本宅（現社宅）に、押しかけさせていたでいたのが、そもそのきつかけです。親神様は現在社宅となつていますが、ここから数多くの人々の病氣、悩み事を身に受けられ、生き神様として世の人々を救うべく、お働きくださってました。神様のお力は、大きく大きくものすごいものが有り、スバズバと全とお見通しで言い当てられ、又、神のパワーで病氣・難をとり下さいました。神様としての大きなお力は勿

論の事ですが、生意気ながら人間的な魅力は限りなく、今までお出会いした事のないお方様でした。私にとって、人としての基本をお教えいただきました。京都の学生時代に学んできたものが、私にとって大変興味深い事柄、内容が多かったのですが、もう一つ理解出来ないものがありました。親神様にお会いしてお話を聞かせていただき、ああ、あれはそういう事だったのかと全て解決したのを昨日の事の様に思い出しています。

親神様は、常に我が身を捨てて人助けをなさっているお方ですが、我が身を捨てるといふことだわりも全くない様にお見受けしました。

ご自分がベッドにいらつしやっても、相手を常に思いやり、心配りされてました。学ぶべきは多すぎますが、今の自分あまり進歩がなくて大変申し訳なく思っています。親神様の日常会話の何気ない様なお話は、深く深く数えればきりがありませんが、親神様語録を二つだけ挙げさせていただきます。

- 一、成功せん失敗がある（失敗は成功のもと）
 - 一、日本海の荒波にもまれた魚は、身が引き締まっておいしい。
- 人間も苦労した人は、味がある。

人それぞれに思い出をおもちでしょうが、私の心の宝として生きる励みにさせていただき、一部だけ拙い文章で書かせていただきました。

最後に、このすばらしい親神様をしっかりと支えられ、あとを持たれた現

世において、娘である稲葉宮司様に心より感謝申し上げます。親神様の御教えを思い出にせず、一人でも多くの方に

- 一、信じる
- 一、悟りをひらく
- 一、感謝する

を知って頂き、広めてゆきたいと念願しておりますので、役員の方々初め、ご崇敬の皆様様、何卒よろしくお願ひ致します。



例大祭の伊賀東照宮

新年のご挨拶

天照御祖神社

宮司 佐々木美津子

(岩手県陸前高田市)

新年おめでとうございます。令和の御代になり初めてののお正月を迎えました。

昨年は伊賀東照宮御創建五十年祭を、宮司稲葉喜代子様はじめ総代崇敬者御一同様のご協力によりまして、かくも盛大に令和元年の佳き日に肅行されましたこと心からお喜び申し上げます。

私が創始者坂野つなへ祭主様と初めてお逢い頂きましたのは、平成十年宮司稲葉喜代子様の宮司就任祝賀会の時でした。美しい青山の稜線に御祭神の御神威が杜の梢上に輝き、真新しい鳥居・社殿が、そして祭主様が私を迎えて下さいました。その時の祭主様の手の温もりが私を包み今だに忘れることは出来ません。

祭主様より伊賀東照宮の御創建のお話を賜り、奉斎御神威の御威徳を仰ぎお慕い申し上げ、さらに神職として経験浅く未熟な私を、翌年平成十一年四月例大祭にご奉仕させて頂き、その時の祭主様の威厳あるお姿に魅せられましたこと、昨日の事の様に思われます。

日光東照宮五月の例大祭・全国東照

宮連合総会への参列等々、勉強の機会をあたえて頂き、たくさんたくさん御指導を賜り感謝申し上げます。

又ある年、祭主様が「体にいいのですよ」と自ら作られました「こぶ液」を飲みながら、母として、女としての歩みをいろいろ話して下さいました。

祭主様のふところの深さ、広さ、何よりやさしいお母様の姿に接し嬉しかったです。

伊賀東照宮御創建なさいました祭主様、奉斎御神威の発揚と信者様への教化救済へのご努力へ深く深く感謝の誠を捧げております。

創始者坂野つなへ祭主様の「神の命持ち」としての悲願成就を受け継ぎ、大勢の崇敬者の皆様と共に伊賀東照宮に御奉仕なさいます宮司稲葉喜代子様に尊敬の念を捧げる私です。宮司様とは平成十年三月國學院大學神職養成講習会で一緒でした。

宮司だった主人亡き後、主人の歩んだ道を絶やしてはいけないと心に誓い、若い学生神職師弟の男子の多い中、五十代女性は三名、その中に宮司稲葉様と私がおりました。クラスの違う私達でしたが、厳しい講義、講義を互いに励ましあい助けあい、苦しくとも楽しい神職養成講習を終了することができました。

あれから二十一年の歳月が流れましたが、三重県・岩手県の女子神職として、神社運営、日々の生活の悩みなど

お互いに励まし支え合ってきました。これまで、伊賀東照宮創始者坂野つなへ祭主様、宮司稲葉喜代子様から

- ・神職としての礎
- ・神社界の交流
- ・人間としての生き方

等々たくさん御指導賜りましたことに感謝申し上げます。

宮司様の卓越したご見識と行動力によりますますのご健勝、神明奉仕に、そして奉賛会会長様はじめ崇敬者の皆様、地域社会の皆様のために活躍なさいまして伊賀東照宮御創建五十年祭をお迎え、ますますの弥栄を御祈念申し上げます。

宮司様はじめ奉賛会会長様、崇敬者の皆様方の御健康、御多幸を心からお祈り申し上げます。

三重県神社庁 名賀支部 神社研修旅行予定

日時 令和2年3月12日
 場所 近江神宮（正式参拝）
 建部神社（自由参拝）
 信楽焼見学

詳しくは後日ご連絡申し上げます。
多数の皆様のご参加をお願い致します。



毎年十一月中

七五三詣り



お子様のご成長の感謝と、これからのご健康ご多幸を謹んで祈願いたします。

◀昭和天皇より日光東照宮へ下賜された楓の木のうちの一本を、平成13年に日光東照宮より賜り、日光東照宮宮司稲葉久雄氏にお手植えいただいた。